

2019年

いちかわTMOアドバンス講座

発表会

本日はお忙しい中、いちかわTMOアドバンス講座発表会にお越し頂き、
誠にありがとうございます。

新たな「まちづくりのリーダー」として『いちかわTMOアドバンス講座』を修了する
12名による発表会を行います。

日常生活や地域活動から新たな課題を発見し、自らの専門性も活かして、
従来とは異なる視点から、イノベティブなアイデアやビジネスプランを発表します。
いちかわ発、地域創造の息吹を、ぜひご高覧ください。

【日時】 2019年6月30日(日) 10:00~16:30

【場所】 全日警ホール（八幡市民会館） 第3会議室

【主催】 NPO法人いちかわライフネットワーククラブ（共催 市川市）

本日の発表資料は、
いちかわライフネットワーククラブ・人づくり事業部
ホームページに掲載されています。

<http://bit.ly/TMOadv2019>



< プ ロ グ ラ ム >

司会 いちかわライフネットワーククラブ 人づくり事業部長 松本 浩和

10:00～10:10 : 主催者挨拶

10:10～12:00 【第1部 受講生発表会 前半】

1. 紙屋 郁子 : 大人もどんどんプログラミングを楽しもう！
～ゲームもアニメーションも自分でつくろう～
2. 齊藤 学 : 離れて暮らす親子の懸け橋 ～ponte～
3. 石垣 瑠美 : 学生服リユースおよびリメイク事業による
地域活性化と雇用創出について
4. 光井 浄司 : シニアの学校じゃない学校「市川サプール構想」
5. 國友 英治 : 「Ichipedia」で、いちかわご当地検定
6. 村松 純平 : 自宅からはじめる小さな革命

12:00～13:00 ～～ 昼食 休憩 ～～

13:00～15:00 【第1部 受講生発表会 後半】

7. 渡慶次康子 : 子どもをまん中にみんなが育ち合う
「クリエイティブ・ミニタウン」構想
8. 石川 紗樹 : 若者とママの目線で、
「選挙」を分かり易く楽しく発信して、市川の投票率 UP へ！
9. 時田 淳子 : 『ミライノオト』～health&life～
看護師が提案するライフデザイン
10. 熊野 侃太 : オンリーワン・コーディネート
～自分のニーズに合う服をデザインしてみよう～
11. 小泉 篤史 : 企業内診断士の活用による市川市の産業振興
12. 佐藤 宏昭 : 鬼越鬼興し計画

15:15～16:15 【第2部 ゲストプレゼンテーション】

修了生からの活動報告

ゲスト

TMO 第6期修了 Depot Cycle&Recycle 湊 誠也 氏

終了後、懇親会（会費制）がございます。
どなたでもご参加頂けます。ご希望の方は、受付までお申し付け下さい。
場所：土間土間 本八幡店（JR 本八幡駅北口ロータリーすぐ）

【第1部 受講生発表会 前半】

◆ 紙屋 郁子

『大人もどんどんプログラミングを楽しもう！～ゲームもアニメーションも自分でつくろう～』

2020年より小学校でもプログラミング教育が始まります。これからの子ども達には、読み書き算数と同じくらい大切な学びだと思えます。プログラミングって何？とても難しそう！いえいえ、今では初心者でも簡単に楽しんで学べるツールがあるんです。子ども達が学ぶプログラミングを、大人の方にも、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

◆ 齊藤 学

『離れて暮らす親子の懸け橋～ponte～』

◆ 石垣 瑠美

『学生服リユースおよびリメイク事業による地域活性化と雇用創出について』

千葉県初！卒業等で不要になった学生服をお下がりするリユース&リメイクショップを立ち上げました。販売までのメンテナンスは地域の方に内職を依頼、店舗運営は子連れで接客が出来る環境です。学生服を通じて、地域や学校の情報が集まり、異世代の方が集うコミュニティの場として市川市に根差していきます。

◆ 光井 浄司

『シニアの学校じゃない学校「市川サプール構想」』

定年後の65～75歳のお話です。高齢化が重くのしかかっている日本ですが、過去を見ても仕方ありません。それならこの時代、皆で前を向きませんか。世界の最貧国の一つコンゴ。内戦に苦しむ中で武器を捨て、代わりに服（ファッション）を着た人達があります。サプールと呼ばれ、人々を明るく変えました。彼らは象徴です。市川から、日本の定年後の10年（65～75歳の時代）を変えるムーブメントを引き起こす、その提案をしたいと思います。

◆ 國友 英治

『「Ichipedia」で、いちかわご当地検定』

市川市に関わる全ての人の「意外な驚き情報」を発見し、発信するのが

「IchiPedia」です。人間関係が希薄になる時代に「IchiPedia」がICTを活用しローカルな情報を発信することで、地域の課題や意外性を発見するなど、様々な効果を生み出し、人と人を繋ぐ役目を果たします。

◆ 村松 純平

『自宅からはじめる小さな革命』

市川市も商店街が衰退の一途、地元住民としては、シャッター街を見るのは寂しいですね、、、しかしそのいっぽうで、主婦やサラリーマンなどの個人が、自身の持つ最小限のリソース「自宅」をベースに独自の「小商い」を展開しはじめ、市川市周辺に目に見えない経済圏が広がってきています。横のつながりが形成するローカルビジネスの革命とは。

【第1部 受講生発表会 後半】

◆ 渡慶次 康子

『子どもをまん中にみんなが育ち合う「クリエイティブ・ミニタウン」構想』

今、子どもたちはどのような環境で育っているかご存知ですか？学校、塾、習い事と時間に追われる毎日。自分で考え創造し自己決定する場がほとんどありません。それを打破しようと始めた「子どもがつくるまち」は、多くの成果をあげています。そこで、さらにクリエイティブな子どものまちを、多くの大人たちの協力のもとにつくります。

◆ 石川 紗樹

『若者とママの目線で、「選挙」を分かり易く楽しく発信して、市川の投票率UPへ！』

17年間市川市で子育てしながらNPOで子ども関連の活動をしてきましたが、市民活動では解決しにくい問題がたくさんありました。それらにインパクトを与えることが出来るのは行政や政治。もっと若い世代もそこに興味を持ってほしい。そのための活動を主に「選挙」にクローズアップして情報発信、投票率を上げるためのアクションを始めています。

◆ 時田 淳子

『「ミライノオト」～health&life～看護師が提案するライフデザイン』

「100年ライフ」マルチステージへ変化したシニアの人生を、楽しく健康に過ごすには、ライフデザインが大切です。自分と新たに向き合い、これからの生き方をデザインし“ミライノート”に記します。夢を可視化することで、生きがいのある暮らしが生まれ、健康寿命を延ばすことにつながります。

◆ 熊野 侃太

『オンリーワン・コーディネート～自分のニーズに合う服をデザインしてみよう～』

これまでは、ファッションの多くは大量生産した既製品を流通させるのが一般的だった。しかし、季節や流行により販売促進できる一方、消費者は十分納得できる消費を享受できず、供給面でも大量の在庫を抱えざるを得なかった。そこでWebシステム等を利用し、消費者とデザインを結び付け多品種少量生産技術を活かしたオンリーワン・コーディネート社会の実現を目指す。

◆ 小泉 篤史

『企業内診断士の活用による市川市の産業振興』

経営の診断・助言や、中小企業施策の活用支援を業務とする中小企業診断士。企業内診断士という隠れた資源を活かし、市川市で活躍するリーダーのみなさんがもっと気軽に中小企業診断士に相談できる場を創ります。起業から経営改善、事業承継まで、経営の専門性×チームで関わる
ICHIKAWA CONSULTING GROUPへ！

◆ 佐藤 宏昭

『鬼越鬼興し計画』

住んでいる鬼越をもっと楽しく、もっと好きになりたい！と、デザイナーという職業を活かして、デザイン観点で考えた、町に個性と愛着を生むための鬼興し計画。「市川にある鬼越」ではなく「鬼越がある市川！」と、市川より鬼越が先に言われるそんな町にしたい！